地域の中で輝く女性グループ活動をめざして

四海漁協婦人部
一田 初美

1．地域と漁業の概要

私たちの住んでいる土庄町四海地区は、観光地として知られる香川県小豆島の西部に位置し、伊喜末、小江、長浜、滝宮の4集落からできている（図1）。総戸数は732戸、人口は2,396人で、主な地場産業として漁業、農業、製麺業が営まれているが、漁家はその多くが小江集落に集中している。親組合の四海漁業協同組合は正組合員94人、地区内の准組合員35人で、主な漁業種類は小型底曳網、鰆流網、のり養殖などである。平成6年度の水揚高は13億6千万円と島内でも高い水準にある。

2．研究グループの組織と運営

私たちの婦人部は昭和36年に結成された。昭和43年に同様な構成員により小江生活改善クラブを発足したこともあり、年々グループの活動も盛んになっていった。現在部員は42名、平均年齢44歳で「よりよい漁家生活をめざして」を活動目標に、健康管理、生活設計などの学習会、海産物の有効利用、親組合や青年部と連携した青空市の開催、地域住民の方々への粉石けん使用の啓蒙運動などに取り組んでいる。

3．活動課題選定の動機

四海地区では長年にわたり、漁場環境の保全と豊かな漁村づくり、また漁業の後継者育成に地域をあげて取り組んできた。婦人部を結成した当時、まだ若妻だった私たちは男子同様沖に出て漁業に従事することが多く、仕事に家事にと忙しい毎日を送っていたが、何とか時間をやりくりして、漁業後継者問題や若妻の役割、子供のしつけなどをテーマとした座談会を開催した。その中で地区の抱えている問題点を探り、その課題について、自分たちのできることから少しずつでも改善していこうということになった。

4．実践活動の状況とその成果

1）子育てと仕事の両立

若者の島外への流出と漁業後継者の減少について話し合い、職業の選択は子供の意志に任せるのがよいという意見にまとまった。また、母親が漁に出ていると子供と話す機会が少なくなりがちであるが、何とか母親の心の暖かさを伝えたいと、沖に出かける時には日記帳を置いて毎日の出来事を記し、家族の心のつながりやふれあいを大切にしてきた。

2）伝統的な後継者育成活動

四海地区の小江集落には、全国でも珍しい活動集団と言われる「小江若者組（剛志舎）」がある。漁業には他の産業とは違った心構えが必要であり、操業には危険も伴うので、自然に順応した合理的な活動や社会連帯感などを尊重する人づくりが要求され、若者組舎内外の活動の中で実践力を伴った青年教育が行われてきている。婦人部としては、これらの後継者育成活動が円滑に行えるよう、女性の立場で参加、協力している。

3）婦人部への加入促進

結婚を機にほかの地域から四海地区に移ってきた若妻の人たちに対しては、新しい生活のとまどいを解消することや、地域の人たちを知ることの手助けになればと考え、婦人部へ加入するよう積極的に勧誘している。婦人部への参加は各家庭から1名という暗黙の了解があるため、若妻が加入した家庭では自動的に母親が退くことになっており、婦人部の若返りにもつながっている。

4）海産物を使った味づくり

市場で売れない小型のウシノシタ類が捨てられていたのを見て、以前から何かに加工できないだろうかと部員どうしで話し合っていたところ、あめ煮に加工してみてはどうかということになった。それから試作研究を重ねて開発した私たちの「新しいふるさとの味・ゲタのあめ煮」については、昭和49年から県農業祭（平成4年度より「農林水産フェスティバル」と改名）に、最近では健康福祉祭（ねんりんピック）、地元での青空市に出品即売し、消費者の方には新鮮さと本物の味が喜ばれ、現在まで続いている。少量を出品していた最初の頃に比べ、現在では年間約200ｋｇを加工するまでになった。

平成6年度には「むらづくり実践活動推進事業」によって、土庄町の備品として、あなご焼き器、大型冷凍庫を購入していただき、これらを活用して9月の県農林水産フェスティバルや町内のイベントで、あなごの蒲焼きを実演販売している。

一方、地元の青空市では、四海漁協青年部が沖に出て漁獲してきた新鮮な魚介類を婦人部が主となって即売している。この青空市は青年部、婦人部の連携活動の一環として、これから先もできるだけ継続したいと考えている。

5）漁家生活の記録

私たちの婦人部では、家計簿や営漁日誌、冠婚葬祭記録などの記帳を絶えず行うように努め、定期的に生活記録の交換会を開催してきた。部員の中には、統計事務所の調査に協力することで長年の記帳が認められ、農林水産大臣からの感謝状をいただいた者が2名いる。しかし、平成5年11月、漁家生活に関する経営管理調査を行ったところ、家計簿記帳は全体の46％、簿記記帳は68％と、多くの家庭で記帳はできているものの、集計分析まで完全に行っている家庭は10％にも満たないという、予想外に少ない結果であった（図2）。

この結果を交換会で部員に周知したところ、若い部員を中心に漁家経営に対する関心が高まり、平成6年8月からは、自分たちの経営に役立てようと月1～2回、農業改良普及センターでパソコンの操作を習うようになった。皆初めてのことばかりなので、最初は機器に慣れることで精一杯だったが、現在では婦人部の年間計画、会計報告書、アンケートなどの文書は打てるようになり、たいへん便利になった。最終的には簿記用のソフトを用いて簡単な記帳、分析、集計は自分たちの手で行えるようになりたいと考えている。また現在のところ講習参加者は10名であるが、少しずつでも人数を増やしていきたいと思っている。

5．波及効果

これらの活動を通じ、役員を中心として皆で協力しあい、一つ一つの目標に向かって学習したことは、婦人部内部の活性化につながっている。

さらに味づくり活動、農林水産フェスティバルへの参加、青空市の開催などを通して、一般消費者との交流に積極的に取り組むようになった結果、私たちの活動に対する地域の方々の関心も、ますます高くなっているように思う。

6．今後の活動計画と問題点

これから特に重点的に取り組みたいと考えている内容は次の3点である。1点目は、雑魚の有効利用のためゲタのあめ煮に続く新しい加工品を研究、開発すること、2点目は、漁家グループ以外の女性グループなどとのネットワークをつくること、3点目は、婦人部を中心とした営漁記帳の推進活動を通じ、パソコンを活用した家計簿や漁業簿記の集計分析によって漁家経営の向上や収支の計画化を図り、明るく楽しく貯えのある健全な漁家生活をおくることである。

記帳に使用するパソコンの台数の不足や漁業簿記用ソフトの不備など、これからの活動に関して残された問題点もまだまだ山積みされているが、婦人部が手を取り合い、共同意識を大切にしあって、さらなる未来に向かって頑張っていきたいと思っている。

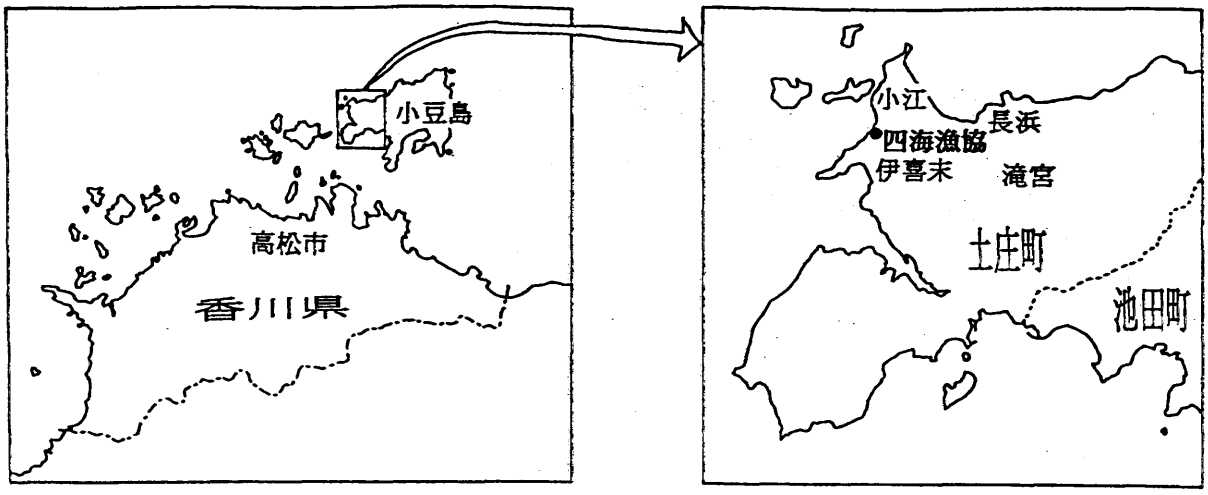


図１．地域の概要図

１．生活設計の樹立　　％

８	大体の計画もっている ５４	将来のことをあまり考えていない ３８

計画もっている

２．家計簿の記帳　　％

６	記帳はしている ４０	記帳していない ５４

記帳分析している

３．漁業経営の計画　　％

１２	部分的な計画を立てている ５６	計画を立てていない ３２

計画を立てている

４．漁業簿記の記帳　　％

８	記帳はしている ６０	記帳していない ３２

記帳分析している

５．作業日誌の記帳　　％

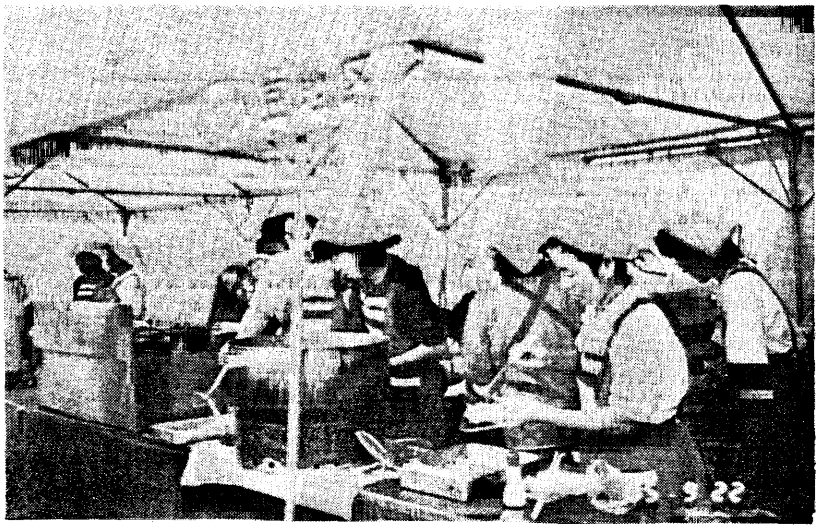
記帳している １２	メモ程度に記帳している ４０	記帳していない ４８

図２．漁家生活調査結果の一部

平成５年１１月１～１５日に小豆農業改良普及所が四海地区の５０戸を対象に調査。調査回収率は１００％。

小江若者組の活動
（若者の交流会）

ゲタのあめ煮の共同加工



県農林水産フェスティバル
における出品即売

地元での青空市

生活記録の交換会
（幼な子を伴って）

パソコンの講習会